

6月19日に行われた初のWSKO Online Seminar Official Classで川島先生に開祖自身の言葉によって[少林寺拳法の]拳士であることはどういうことかということをお聞きしました。正義のみかた・ヒーローになって後輩の面倒をみて守ってあげること。ほとんどの方がそういった努力をしていることを願いますが、反対側から見てみると時には進歩している部分があっても未だに起きている大きな問題があります。

私は世界どこの拳士でも経験していることだと思いますが、講習会へ行く時ワクワクっと自分よりも何年も経験持ちで尊敬できるヒーローの先生方から学べるチャンスを楽しみにしています。指導者の先生方がみなさんの前に並び、次々と紹介されます。しかし、いつも指導者は全員男性です。私は20年以上少林寺拳法の修行をしておりますが、講習会でもどの支部へ行っても女性の指導者を見かけた覚えは一回もありません。私も男性の一員だし、それをみても最初はどうも思わないかもしれません。しかし、自分になぜそうなのか、なぜ少林寺拳法ではヒロインの女性の指導者がそんなに少ないのかと聞いてみると、世界中多くいる女性拳士達にとってはどうだろうか、と思うようになりました。彼女達は誰をみて「私もああいう風になりたい」と思えるのでしょうか？

開祖は従者でなく、リーダーになれる者を望んでいると言いましたが、少林寺拳法の女性リーダー方は一体どこにいらっしゃるのでしょうか？

女性は政治や多くのスポーツの世界でも、一般的に武道でもあまり代表されておられません。しかし、我々[一般世間も]近年少しずつ多数の理由のため、このままではいけないと思うようになり、ただ単に女性のロールモデルが必要だからだけではありません。男性中心のリーダーシップを好む側はリーダーとして満たす女性がいなると言い張る者もいますが、それはよく観察すれば事実ではありません。では、少林寺拳法ではどうでしょうか？ 私自身は3段以上の女性拳士は多数知っていますが、その内のほとんどはいつか支部長になっても良いと思う方ばかりで、その内の何人かは実際に支部長になろうとしたけど全員不成功、中には仕方なく諦めてしまった者ばかりです。なぜ？

答えはシンプルです。聞きたくない・都合の悪い事実であるかもしれませんが、悲しい現実です。上に立つ者に止められているからです。実力が足りない、初心者だけ教えるべきだ、時期・タイミングは今じゃない、その他、多数の言い訳ばかりです。こういったことを言うも者は男性で、大抵年輩の男性、誰も男性だけが権利や力を持つことに対してどうも思わなかった世界で育った者達です。

こういった年配の男性方は若い女性達に道場内では書類関係の仕事や時には指導などたくさん仕事をさせ、彼女らの熱心さ・アイデア・エネルギーを組織のために利用しますが、実際に彼女らにステータスをあげるとなると突然百数問題・デメリットを見つけ出します。

もちろんこのままではなりません。特にこの「Me Too・Times Up」時代ではこういった不公平さやそういった不公平な環境を作っている男性達の存在を明らかにしています。では、我々WSKO・本部の人間・拳士・リーダー達はどうすべきでしょうか？

もちろんどの拳士も知っている女性（特に支部長を目指す女性拳士）の味方になって応援・サポートすることができます。ちゃんと自分の意見を怖がらずに言っただけは間違っていると思うことは間違っていると言うべきです。

しかし、力の持つ者が道を開いてくれなければ、下に立つ拳士の私達はどうすることもできません。でも開祖が築きあげた・描いた世界・伝統を続けるために跡を引き継ぐ本部はそういった力があることを信じております。

もう常に皆さんご存知だと思いますが、開祖の素晴らしいメッセージが世界各国々へ広がるスピードが遅く、私はこういった理由が一部の原因ではないのか、と思います。もしも世界人口の約半分である女性らがこの素晴らしい武道のリーダーシップの中で自分達が代表されているのを見えないのなら・お手本になるヒロインが見当たらないのなら、最初から入門ですらしたがりませんか？

中には多くの男性で男性中心のリーダーシップであることがなぜ大問題なのか理解できない方もいるでしょう。しかし、相手・他人の気持ちになって物事を考えてみることはいいことで、入門するかしないか決めようとしている女性の方（特に若い女性）の視点で物事をみる必要があります。どれだけやってはいけない行動や言ってはならない事・言い方が我慢されている中、もしも女性のリーダーだったらすぐにそれを見通せることでしょう。

女性の外見に関してのコメントや女性に対してセクハラ的な行為はどの女性の方も望んでおりませんが、それがどれだけ酷いことか理解出来なかったり、そういったことが起きていることすら気づかない男性が多く存在します。同じようなことを他の男性の方に言いますでしょうか？もしも答えがNoであるのなら、おそらく言わないべきです。女性を特別・別扱いすることによって、それは彼女らが男性よりも価値観が低い、真面に相手にしてくれないなど、そういった気持ちにさせることもあります。目立つ一例として、性別によって種目ごとに分ける大会ですが、さらに中には男性が女性を投げてはいけないルールなども存在しております。女性の方と練習したことのある誰もが分かりませんが、そういったルールは無用です。最初から体の具合などで気をつけなければならないことがあるのなら男女関係なく前もってそれは自らどうするか決めておくべきです。

二世の師家は女性の方でしたが、だからと言って現在に至って男女差別が存在しないわけではありません。師家の役目というのは一般的に男女関係なく開祖の家系の中で受け継がれる役目としてみられておりますし、一般拳士の方々には当てはまりません。最終的には日常的に女性拳士方にお見せしているイメージというのは目の前に並んでいる指導者の先生方で、その全ては男性。そういった指導者・先生方が日常練習をリードし、他の皆んなの見本となり、私達の憧れ・ヒーロー・ヒロインとなるのです。開祖自身は差別をなくす必要性をいつも提唱しておりました。なので、私は開祖が今の時代になって男女差別を許すとは思いません、特に近代社会が経験してきていることを考えると。

私は複数他の武道も学んだことがありますが、他の武道の中ではよく女性の方の指導を受けまして、男性の指導者に負けないぐらい、時には男性の指導者よりも優れた指導を受けました。女性の方から指導されることに問題を感じたことは一回もありませんし、多くの女性拳士の方々からはトップに女性が立っているのを見て嬉しい、いつか自分もそれを目指すことが可能であると感じれたと言っておりました。

これは私達少林寺拳法でも可能なことなのです。21世紀の少林寺拳法、誰もが公平で歓迎される少林寺拳法が可能なのです。